

さまざまな“苦痛”和らげる

がんになると、身体的な症状だけでなく、精神的な苦痛も伴います。さまざまな苦痛は、患者から生きるエネルギーを奪うこともあります。これらの苦痛を和らげ、自分らしく穏やかに過ぐすための取り組みが「緩和ケア」。そして、がん患者の日常生活の質を高めるために行われているのが「リハビリテーション」です。さきがけがん講座アフターモデルは、秋田市の外旭川病院・嘉藤茂ホスピス長に緩和ケアについて、県理学療法士会・田安義昌理事にはリハビリテーションについて講義してもらいます。

緩和ケア

緩和ケアとは、がんのすべての病期において必要とされる、患者を全人的に支えようとする取り組みのことです。臓器そのものに注目しがちなこれまでの医療の在り方を超えて、患者さんを一人の人として捉え、四つの苦悩を抱える存在と認識します。

棟またはホスピス、一般病棟、在宅の三つが挙げられます。このうち、一般病棟において専門的な緩和ケアを提供するシステムとして「緩和ケアチーム」があります。在宅では、緩和ケアに関心のある医師や看護師らが主になつて緩和ケアを提供しています。

話をし、相談に乗つてもらつてください。

私が勤務する外旭川病院のホスピス病棟では、がんとともに生きる患者さんと家族を応援し、体や心の痛みを和らげ、その人らしく過ごせる場となるようサポートすることを心掛けています。ケニアの寺敷は、医師も看護師も

んど一緒に活動を通して、毎日の生活を豊かにするお手伝いをしてもらっています。

生活に重点置く 訪問看護

在宅療養で緩和ケアを受ける場合、極めて重要な役割は訪問看護です。診療はビ

二 副文 字母

う認識も必要ある。訪問看護はの下で提供され、護師には患者の強みは、的確の強みは、的確基づいて現在の想定しうること

かもしませ
は医師の指示
れますから、看
の病状が伝え
。医療専門職
な病状把握に
の症状を説明
うることを
だと思いま

を決めておくことが大事です。急変時には、まず家族が動かなければいけません。誰に連絡すればよいのか。連絡の後、誰が何をしてくれて、患者はどうなるのか。これらの中の手順が事前に分かっていれば、家族の不安、動揺は最小限に抑えられます。

す。このようなときには、ホスピスのある病院の医療相談室へお尋ねください。

数は全国トップクラスの180人。マージャンやカラオケ、大喜劇の上演など見学者

いるかもしけ
によつて重要を
自分へ届かなか

せんが、それ
なサポートが

急変時の対応です。万が一に慌てないために、急変した場合を想定して前もって手順

A color portrait of a middle-aged man with short, dark hair and glasses, smiling broadly. He is wearing a light-colored, possibly white, t-shirt. The background is a plain, light color.

語る人——外旭川病院 ホスピス長
喜藤 茂 医師

【かとう・しげる】
1956年大仙市生まれ。1982年横浜市立大学医学部卒業、1984年秋田大学医学部第一外科入局。その後、同大学医学部精神科にて精神科研修を受ける。県立リハビリテーション精神医療センター勤務などを経て、2000年より現職。県緩和ケア研究会副会長。

うしても体
が中心にな
りますが、
訪問看護は
生活に重点
を置きま
す。看護師
という他人
を自宅に入
れたくない
す。また、訪問看護は生活を
見ますから、病状と生活の両
方を視野に入れ、今、この患
者さんには何が必要かを個
別に考えてくれます。ただ
訪問看護は24時間体制で提
供するように求められる激
務です。従事する看護師の
責任と苦労はとても大きく
頭の下がる思いです。



「緩和ケア」3つのポイント

1. がんと診断されたときから
緩和ケアを受けることが可能
 2. 多職種が連携し、がん患者をサポート
 3. 在宅療養に欠かせない訪問看護

高齢化が進み、がん患者が多い本県で今後、より質の高い緩和ケアを受けていくためには、さまざまなレベルでの「連携」がキーワードになります。そして、緩和ケアの量と質を向上させてほしいという県民の声が大きくなることが、医療の現場が変わっていくきっかけとなると感じています。

ナルケア」というイメージが強いですが、今はがんと診断された時期から緩和ケアを受けるという考え方がスタンダードになっています。気になる人は通院している病院ではどのように対応してもらえるか、主治医や、がん相談支援センターなどの窓口に相談してください。